

上越市立稲田小学校



稲田小だより

令和6年度 No. 8

令和6年12月

◎ありがとうございました

校長 遠藤 和英

かつてないような暑さの中で始まった2学期。8～9月、毎朝、職員が少し早く出勤し、窓を開けて校舎内にこもった熱気を逃がし、エアコンのスイッチを入れることから始まりました。その暑さなど忘れたように、上越の冬らしく雪が降る12月まで、2学期は合計81日間でした。一つの学期が終わると、いつも考えることがあります。それは、子どもたちにとって、この期間が自分が成長したなという実感をともなって感じられる期間になっていたらいいなということです。

自分の成長を感じるということは、大人でもなかなか難しいです。成長過程にある子どもたちにとっても、自分の成長を実感することは難しいです。自分で振り返り、約束を守ることができるようになった、友達の気持ちを考えることができるようになった、我慢ができるようになったなどと具体的に感じる事ができれば幸せです。しかし、多くの場合、すぐ近くにいる大人が、その成長を具体的に知らせてやらないと気付かないことが多いと感じています。自立に向かう子どもたちにとって、自分の成長を感じる事が何より大切なことだと分かっているのに、2学期を通じて私自身いったい何人の子どもにそういう働きかけができたろうと反省させられることばかりです。保護者の皆様はいかがでしょう？

子どもたちの成長に、日々の授業が何より大切なのはいうまでもありません。しかし、授業は毎日あるからこそ、自分の変化を感じるのは難しいです。その点、前にもお伝えしたように、児童会活動や各種行事などの特別活動というものは、人とのかわりが重視されることから、自分の成長を比較的感じやすいものだと考えています。回数も日々の授業ほど多くありませんから、子どもの印象にも残りやすいはずですが、2学期におこなった大きな特別活動は、修学旅行、学習発表会です。日々の授業では自分の成長を実感できない子どもたちも、これらの活動を通して自分の確実な成長を感じてくれたと思っています。この他にも、子どもたちはそれぞれの委員会で、「パフォーマンス大会」、「縄跳び大会」、「読書ビンゴ」、「逃走中」など、各種行事を企画・運営し、校内を盛り上げてくれました。これらを企画・運営をする中で、5・6年生を中心に成長してたくましくなった様子が見られました。3学期には、稲田っ子班による「稲田っ子フェスティバル」も計画されています。ここでもまた、子どもたちの活躍を楽しみにしています。

それにしましても、2学期も保護者や地域の皆様にたくさん助けていただきました。特に、環境整備活動や学習発表会のスムーズな運営のためにご協力いただいたPTA ボランティアの方々、そして子どもたちの体調や気力を整えてくださったすべての保護者の皆様に感謝いたします。また、地域の方からは、稲田むすぶフェスティバルや花火大会で子どもたちを楽しませていただいたり、学校に足を運んでいただき、学習を通して職員が知らない校区の様子を子どもたちに伝えていただいたりしました。これらの活動は、子どもたちがふるさと稲田を誇りにもつことにつながると感じました。お陰様で充実した2学期となりました。感謝いたします。

最後になりますが、雪が降る寒い年末を迎えました。どうか、お体にお気を付けいただき、よいお年をお迎えください。

3学期も、よろしくお願いたします。

稲田小学校ABCD

A:あたり前のことを

B:ばかにしないで

C:ちゃんとできる人が

D:できる人(すごい人)